

令和5年度事業報告

1. 事業概要

人口減少、少子高齢化が進展し、我が国が超高齢化社会に向かっている中、人生100年時代を見据え、健康で働く意欲のある高齢者が、自身の技能や経験を活かし、地域社会に密着した仕事をするにより、生きがいの充実と社会の活性化に寄与するシルバー事業は、ますます重要性を増してきており、地域社会からの期待も一層高まっています。

北広島市シルバー人材センターでは、全国シルバー人材センター事業協会の「第2次会員100万人達成計画」に基づく当センターの「会員拡大計画（平成30年度～令和6年度）」により会員拡大を図るため、女性会員の入会促進、企業退職（予定）者層への働きかけ及び退会抑制などの取組を進めてまいりました。

また、5月に新型コロナウイルスの感染症法上の分類が5類に変更となったことから、令和5年度は感染予防対策を取りながら、年度当初の事業計画で実施を予定していた各種講習会やイベントのほか、一日奉仕デーや3園の市立保育園への花苗寄贈などのボランティア活動を実施してまいりました。また、秋の「手作りマーケット」、スマホ初心者向け講習会など、新たな取組も実施することができました。

令和5年度の事業目標として、会員数540人以上、受注契約金額226,000千円を掲げ、会員の拡大、就業機会の開拓などに向け取り組みました。

結果は、令和5年度の会員数は499人と前年度に比べ29人（入会会員数44人、退会会員数73人）の減少となり、就業率も、派遣事業も含めて74.9%と前年度より1.8ポイントの減少となりました。

また、受注金額は、211,070千円と前年度に比べ6,746千円の減少となり、受注件数、就業実人員、就業延人員についても減少となりました。

受注金額の内、請負事業では、公共部門が2.9ポイントの減、企業部門が5.8ポイントの増、家庭部門が25.4ポイントの減となり、請負事業全体では、前年度比で3.7ポイントの減少となりました。

減少の要因としては、公共事業（リユース事業）の縮小、市直営から指定管理者への移行（学童クラブ運営事業）、また、就業会員の減少や高齢化により家庭の草刈り・草取り・剪定業務に対応できなかったことなどが挙げられます。

新型コロナウイルス感染症による影響も落ち着きが見られ、事業実績については回復傾向にあるものの、依然として厳しい状況が続いています。

一般労働者派遣事業につきましては、市内 10カ所の事業所で就業実人員は 45 人、派遣受注金額は 27,012 千円で前年度に比べ 1.5 ポイントの増となり、ほぼ前年度と同様の傾向で推移しています。

令和 5 年度の事業運営にあたりましては、ご支援、ご協力をいただきました市民・企業・団体・北広島市並びに会員の皆さんに厚くお礼申し上げます。

区 分	令和 5 年度	令和 4 年度	比較増減	対前年度比
登録会員数	499 人	528 人	▲29 人	94.5%
就業実人員	374 人	405 人	▲31 人	92.3%
就 業 率	74.9%	76.7%	▲1.8%	97.7%
就業延人員	34,767 人日	38,351 人日	▲3,584 人日	90.7%
受注件数	1,468 件	1,809 件	▲341 件	81.1%
受注金額	211,070 千円	217,816 千円	▲6,746 千円	96.9%
請負事業	184,058 千円	191,208 千円	▲7,150 千円	96.3%
公 共	103,851 千円	106,943 千円	▲3,092 千円	97.1%
企 業	56,081 千円	52,982 千円	3,099 千円	105.8%
家 庭	16,481 千円	22,088 千円	▲5,607 千円	74.6%
独自事業	7,645 千円	9,195 千円	▲1,550 千円	83.1%
派遣事業	27,012 千円	26,608 千円	404 千円	101.5%
公 共	10,456 千円	10,054 千円	402 千円	104.0%
企 業	16,556 千円	16,554 千円	2 千円	100.0%

以下、令和 5 年度事業実施状況について報告いたします。

2. 事業の実施内容

(1) 事業の普及啓発と就業機会の拡大

- ① 市広報紙「広報北広島」にセンター専用のスペースを確保し、入会説明会、花苗・腐葉土販売や木工展示販売会などについて掲載し、会員拡大、市民・企業などへの普及啓発に努めました。
- ② 会報「ふれあい」を毎月 25 日、「ふれあい特集号」を 7 月及び 2 月に発行し、センターの事業計画や各種講習会の予定、安全就業などを周するとともに、地区懇談会における質疑内容や女性委員会(ほほえ〜む)の活動紹介、安全委員会だより等を掲載するなど情報提供を図りました。
Smile to Smile (会員専用の情報提供サイト)、会報「ふれあい」等を活用して就業情報を提供しました。

- ③ 6月15日から17日までの3日間、エルフィンパーク交流広場で木工展示販売会を開催し、併せて女性委員会（ほほえ～む）の作品展示販売も行いました。

11月5日に総合体育館で4年ぶりに開催された「元気フェスティバル in きたひろしま 2023」に参加し、木工班、女性委員会（ほほえ～む）の作品展示やセンター事業の紹介を行い、シルバー事業のPRに努めました。

- ④ センターの社会貢献活動として、6月7日に3園の市立保育園へ花苗を寄贈しました。また、10月21日に一日奉仕デーを実施し、55名の会員が参加して北海道ボールパーク F ビレッジ周辺の清掃活動を行いました。
- ⑤ シルバー活動センター及び大曲ふれあいプラザの指定管理者として、施設の適切な管理を行うとともに、市民を対象にした包丁研ぎ講習会や企業紹介ブースの設置などの自主事業を開催し、親しみやすい施設運営とセンター事業の普及に努めました。
- ⑥ 10月12日、13日の2日間、シルバー活動センターにおいて、秋の「手作りマーケット」を開催し、秋野菜販売、木工品販売、女性委員会（ほほえ～む）の作品販売やお茶飲み広場の開設、また、会員による「ミニコンサート」を実施しました。
- ⑦ ホームページは、入会案内やイベント情報など内容を随時更新しながら、新しい情報の提供及び発信、情報公開に努めました。
- ⑧ 未就業会員及び就業機会の少ない会員に対する仕事紹介や相談を随時実施し、就業機会の提供に努めました。

(2) 安全就業の推進と健康の確保

- ① 会員の安全と就業上の事故を未然に防止するため、令和5年度安全就業対策基本計画を策定し、「安全就業第一、事故ゼロ」を目標に事故防止対策及び安全教育の推進を図りましたが、物損事故1件、傷害事故4件、労災事故1件が発生しました。
- ② 安全委員会では、7月から10月まで、安全委員と理事による就業現場の安全パトロールを4回実施し、就業実態の点検、安全上の注意など安全就業の指導に努めました。
- ③ 草刈班や剪定班などの職域班を対象にした講習会を開催し、機械器具の取扱い、危険予知行動と事故防止の強化に努めました。
- ④ 安全就業を推進するため、4月28日に安全大会及び安全就業講習会を開催し、「安全就業宣言」を行いました。

また、安全就業と交通安全に係る標語の募集を行い、安全に対する意識啓発に努めました。標語募集の結果、安全就業標語個人の部に38点、職域班の部に16点、交通安全標語個人の部に41点、職域班の部に29

点の応募があり、優秀作品については活動センターロビーに展示しました。

- ⑤ 11月28日に市の交通安全推進員と厚別警察署の方を講師に招いての「交通安全教室」、北海道警察の交通安全教育車「ほくと号」による疑似体験を行い、高齢者特有の安全運転のポイントを学びました。
- ⑥ 夏場における就業時の体調管理については、特に熱中症には注意するよう呼びかけました。

(3) 適正就業の推進

「適正就業ガイドライン」に基づき、臨時的かつ短期的な就業、軽易な業務に係る就業機会の確保に努めました。

(4) 職業紹介事業の実施

就業を希望する高齢者に対して、適正かつ適切な職業紹介ができるよう努めました。

(5) 一般労働者派遣事業の実施

北海道シルバー人材センター連合会北広島市事務所として一般労働者派遣事業（シルバー派遣事業）を実施し、派遣登録会員の就業機会の拡大を図りました。

(6) 会員の拡大と知識・技能の向上

- ① 入会希望者に対して定期的に説明会を開催し、新規会員の入会促進に努めました。令和5年度に入会した会員は44名でした。
- ② 「会員拡大計画」の目標会員数の達成を目指し、「ゴールド会員制度」や「夫婦会員制度」のほか、新たな「会員紹介キャンペーン」など、具体的取組事項に重点を置き、会員の拡大に努めました。
- ③ 北海道シルバー人材センター連合会主催による「入会説明会」を8月と10月に、「シニア女性応援セミナー」を6月に、「剪定技能講習会」を7月に、「就業体験」を9月に開催し、会員拡大に努めました。
- ④ 就業機会の拡大及び後継者の育成を推進するため、網戸張り、包丁研ぎ、剪定、冬囲いなど各種技能講習会を開催し、知識・技能の向上を図りました。
- ⑤ 会員のデジタル利用を促進するため、Smile to Smile（会員専用の情報提供サイト）への登録拡大を図りました。

(7) 組織の強化と事務局体制

- ① 理事会のほか、理事専門部会、各委員会を開催し、事業の適正な運営と組織の活性化に努めました。また、9月8日には北海道シルバー人材

センター連合会北海道ブロック研修会に役員 8 名が参加し、知識の高揚及びセンター間での情報交換を図りました。

- ② 地域班長連絡会議、地区懇談会を開催し、班長及び会員から意見などをいただきながらセンター運営に努めました。
- ③ 北海道シルバー人材センター連合会や道内各センターとの連携を図るとともに、事務局職員として日常業務の円滑な遂行のために必要な知識、情報を得るため、安全就業推進員研修会、会計担当者研修会、派遣実務研修会、インボイス説明会などに積極的に参加し、自己研鑽に努めました。
- ④ 入会説明会に理事が持ち回りで出席し、会員としての生の声を参加者に伝えるなど役員が積極的に事業運営に参画しました。

(8) 会員の福利厚生

北広島市シルバー人材センター親睦会の日帰り旅行、宿泊旅行の実施あたり、親睦会と連携・協力して会員相互の交流と親睦を図りました。

(9) 独自事業の推進

就業機会の拡大と独自事業の活性化を図るため、花苗づくり・腐葉土づくり・木工品づくりの 3 事業に取り組み、シルバー製品の PR 及び販売促進に努めました。

(10) 地域就業機会創出・拡大事業

10 月に市と「空き家等の適正な管理の推進に関する協定」を締結し、新たなシルバー業務として「空き家等の見回り業務」を開始しました。

(11) 財政基盤強化

- ① 安定した事業の運営と経費の節減を基本に財政基盤の強化に向け、北広島市に要望書を提出し、補助金の確保や公共事業の発注など支援を要請しました。
- ② 10 月からのインボイス制度の施行に伴って、事務費率の改定を行い、安定的な財政運営に努めました。

(12) 関係機関・団体との連携強化

9 月 7 日に安全委員会、女性委員会（ほほえ〜む）が合同で千歳市シルバー人材センターを訪問し、安全就業の取組、女性委員会活動についての情報、意見交換を行いました。